中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.45

内宮中学校

千年のいのちの和釘

「生き方を考える」というテーマで学習している総合的な学習の時間。先人からも学びたいと、地域の偉人である白鷹幸伯さんをとりあげました。

白鷹幸伯さんはどんな人

白鷹さんは、和釘づくりの第一人者で、千年もつ和釘をつくり上げ、薬師寺西塔の再建に貢献しました。本職は土佐鍛冶の流れをくむ刃物づくり職人で、製作物に入れる製作者の名、銘は「興光」です。一度は家業の鍛冶屋の仕事から離れ東京に行きました。鍛冶屋を継ごうかどうか迷った時期もありましたが古代の大工道具の復元に興味を持ち、「技術を持つものは、どこにいても物は作れる」と松山に帰り、鍛冶屋を継ぎました。千年の釘は、この松山で、白鷹さんが研究を重ね、何度も作り直して産み出されたのです。

（佐伯　苺）

なぜ和釘をつくり始めたのか

幸伯さんは、若い頃「木屋」という東京の刃物屋で働いていた時に、宮大工の棟梁として有名な西岡常一さんと出会いました。その西岡棟梁に、古代の大工道具について詳しく教えてもらううちに、それを復元したいと強く思うようになりました。

松山に帰り、鍛冶屋を継いでからも、古代道具の復元を試み続けていましたが、ある時、西岡棟梁のもとに薬師寺西塔再建の依頼が来たのです。西岡棟梁は「四国に面白い鍛冶屋がいる」と、幸伯さんに声をかけ、和釘づくりを任せました。

（木戸　麗考）

地元では「ひげさん」と呼ばれていた
画：土居　拓未

「千年もつ」といわれる和釘

白鷹さんは、建物を支えている木と同じくらいの命をもつ釘を作ろうとしました。その思いがつまった白鷹さんの和釘は、高純度の鉄で作られ、木の節の中心より柔らかいものです。和釘の先端は細くて中心は表面に凹凸、膨らみがあり、頭に近い部分は再び細くなっています。木に釘を打ち込むと頭に近い部分に隙間ができ、木が元に戻ろうとする性質で隙間を埋めるため、釘は抜けません。木の性質に合わせて作られた和釘は、木とともに日本の文化財を支えています。

（東川　來虹）

白鷹さんは、仕事への誇りを持ち、鍛冶屋として恥じない仕事をと考えていました。「たとえ見えなくなっても、いつか気付いてもらえた時に見た人に感動を与えたい。」と和釘づくりに一生をささげたんだと思います。白鷹さんは和釘づくりのことを「職人として生きるための仕事ではなく、歴史への参加」と思っていました。未来に日本の文化を残そうとする白鷹さんの熱い思いとともに、和釘は今も歴史を刻んでいます。

（中岡　柚羽）

薬師寺西塔
（世界文化遺産：奈良県）
画：石﨑　三奈

和釘を鍛錬する
白鷹幸伯さん
画：石﨑　三奈

その心は息子・興光さんへと受け継がれている

幸伯さんは生前、息子の興光さんに、「この受け継がれてきた技術を次の世代に繋いでほしい」と言っていたそうです。幸伯さんの銘は「興光」そして、息子さんの名も興光。このことからも、願いが込められていることが分かります。

興光さんも、「自分がやめてしまうと今ある文化財が維持できなくなる」と使命を感じ、父親から受け継いだ技術で、今も和釘を打ち続けています。

（土居　拓未）

※道後温泉別館 飛鳥乃湯泉のエントランスを飾る巨大な木版壁画を支えているのは、興光さんの打った７００本の和釘です

息子の白鷹興光さん（右）を取材している
木戸さん（左）と土居さん（中）

白鷹さんから学んだこと

一度は離れた職業に就き、何十年も本気で続けたことは、本当にすごいと思いました。私も、小さなことから続けて、いつかは社会に貢献することにつなげられたらと思います。

（佐伯　苺）

細かい作業の中、白鷹さんの集中力と職人としての意識は本当にすばらしいなと思いました。（東川　來虹）

白鷹興光さんにインタビューさせてもらって、僕はとても努力は大切なんだと学びました。（木戸　麗考）

今回学んだのは、何のために仕事をするかという白鷹さんの「仕事への意義」です。白鷹さんは、未来のために自分の仕事に誇りを持ち生涯をささげました。私も自分にできることを精一杯して、多くの人から信頼される人を目指します。

（中岡　柚羽）

内宮中に寄贈された和釘

息子の興光さんに伝えた「和釘づくりを次の世代につないでほしい」という願いは、「人生何があるか分からないんだから、今ある試練を乗り越えるんだ」と伝えたかったのだと私は思いました。（土居　拓未）

後列左から　土居さん、木戸さん、東川さん、吉田さん（題字）
前列左から　石﨑さん（挿絵）、佐伯さん、中岡さん（全員２年生）

学習のまとめ

働くことは、「自分の仕事に誇りを持ち、責任感を持って取り組むことが大切。途中でやめないで、最後まで一つのことを貫き通せば、社会に貢献することにもつながる。」と学びました。

先人と文化の読み物教材 広がれ！ふるさと松山の心

松山ゆかりの先人78人と伝統文化や歴史のお話17話を掲載しています。購入方法など詳細は市教育研修センター事務所☎989-5144へお問い合わせください。

「語り継ぎたいふるさと松山 百話 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は学校教材です